

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-5117

(43)公開日 平成5年(1993)1月26日

| (51)Int.Cl. ⁸ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|--------------------------|------|---------------------------------|----------------|----------------|
| A 6 1 F 13/15 5/44 | | A 7807-4C 7603-4C 7603-4C | A 6 1 F 13/ 18 | 3 2 0 3 6 0 |

審査請求 未請求 請求項の数2(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-50104

(22)出願日 平成3年(1991)6月28日

(71)出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72)考案者 滝田 浩美

栃木県芳賀郡益子町大字七井 2343-10

(72)考案者 横松 弘行

栃木県真岡市中 2422-1

(72)考案者 藤平 進

栃木県芳賀郡市貝町大字文谷 1226-1

(72)考案者 馬場 宏巳

栃木県宇都宮市水室町 1006-136

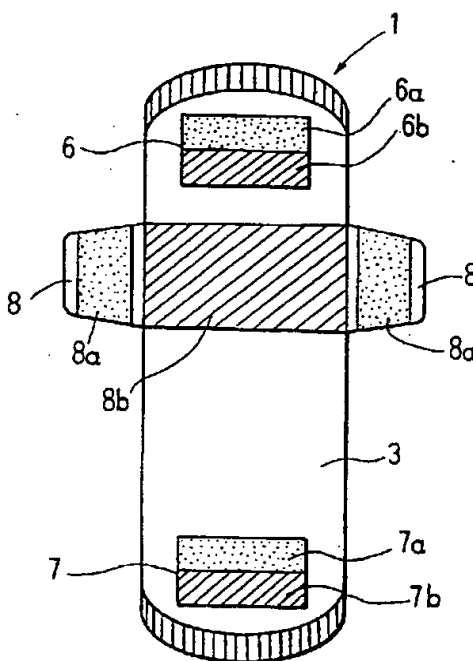
(74)代理人 弁理士 羽鳥 修

(54)【考案の名称】 吸収性物品

(57)【要約】

【目的】 剥離紙を不要とすることにより使用時の操作を簡易にし且つ着用中のずれを確実に防止できるとともに製造が容易な吸収性物品の提供。

【構成】 本考案の吸収性物品1は、液透過性の表面材2と、液不透過性の防漏材3及びこれらの表面材2と防漏材3との間に配置された吸収体4とを有し、該吸収性物品の裏面側の表面には、吸収性物品の長手方向における前部と後部とのそれぞれに粘着部6、7が設けられており、該各粘着部6、7は、粘着剤が塗布された粘着剤部分6a、7aと粘着剤に対して剥離自在な剥離剤部分6b、7bとを備え、上記吸収性物品が、上記前部と上記後部とが互いに対峙するよう四つ折りした際に、一方の粘着部の粘着剤部分6a、7aを他方の粘着部の剥離剤部分6b、7bが被覆するように配置されている。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 液透過性の表面材と、液不透過性の防漏材と、これらの表面材と防漏材との間に配置された吸収体とを有する吸収性物品において、該吸収性物品の裏面側の表面には吸収性物品の長手方向における前部及び後部のそれぞれに粘着部が設けられており、該各粘着部は、粘着剤が塗布された粘着剤部分と粘着剤表面を被覆し粘着剤に対して剥離自在な剥離剤部分とを備え、上記吸収性物品を上記前部の粘着部及び上記後部の各粘着部が互いに対峙するように四つ折りにした際に、一方の粘着剤部分を他方の剥離剤部分が被覆するように配置されていることを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】 上記吸収性物品は、その幅方向外側に延出する一対のウイングを備え、各ウイングの一部に粘着剤部分が設けられているとともに、上記防漏材には、該ウイングが折り畳まれた際に粘着剤を被覆する剥離剤が設けられていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

*【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施例による生理用ナプキンの展開図である。

【図2】 図1に示す生理用ナプキンの折り畳状態を示す斜視図である。

【図3】 図2に示す生理用ナプキンの正面図である。

【図4】 本考案の他の実施例による生理用ナプキンの斜視図である。

【図5】 従来の生理用ナプキンを示す側面図である。

【図6】 他の従来の生理用ナプキンを示す側面図である。

【符号の説明】

1 生理用ナプキン

2 表面材

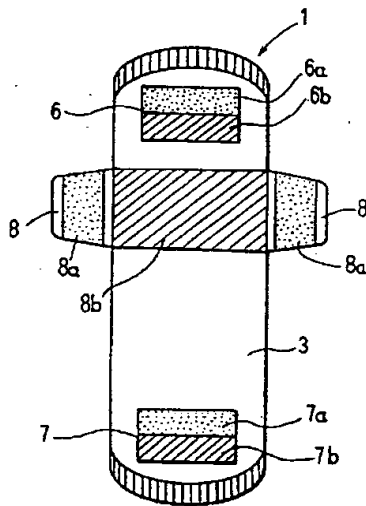
3 防漏材

6、7 粘着部

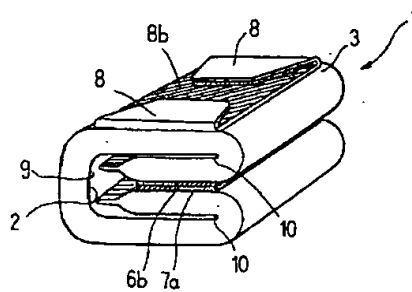
6a、7a 粘着剤部分

6b、7b 剥離剤部分

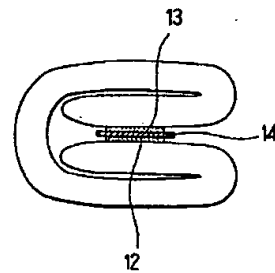
【図1】



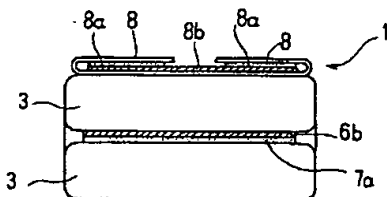
【図2】



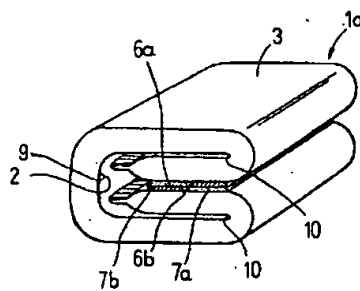
【図5】



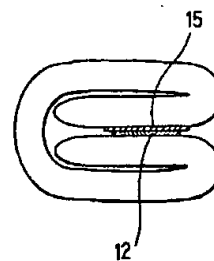
【図3】



【図4】



【図6】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、液透過性の表面材と、液不透過性の防漏材と、これらの表面材と防漏材との間に配置された吸収体とを有する吸収性物品、特に、生理用ナプキン等の吸収性物品に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

この種の吸収性物品、例えば、生理用ナプキンにおいては、生理用ナプキンの裏面、即ち防漏材側に粘着剤を設け、着用時には、その防漏材側をショーツ等の下着に接着して、着用者中の生理用ナプキンのずれを防止する構成が知られている。

【0003】

このような生理用ナプキンで、非使用時には、粘着剤の表面を剥離テープで被覆しておき、使用時に、その剥離テープを引き剥がして粘着面を露出して用いるようになっている。

例えば、実開昭57-160721号公報に開示されている生理用ナプキンでは、図5に示すように、生理用ナプキンを4つ折りにして、該生理用ナプキンの前部の粘着剤12と後部の粘着剤13を互いに突き合わせて、これらの粘着剤12、13間に剥離紙14を介在させる構成が開示されている。この従来の生理用ナプキンでは非使用時には、前部の粘着剤12と、後部の粘着剤13との両方を、1枚だけの剥離紙14にて粘着剤を被覆する構成としている。

【0004】

また、実公昭59-9616号公報には、図6（該公報の第1図）に示すように、生理用ナプキンの前部（あるは後部）に粘着剤12を配置し、後部（あるいは前部）に剥離剤15を配置した構成が開示されている。尚、該公報の第2図には剥離剤を表面材の表面に設ける構成が示されているが、表面材側に剥離剤等を配置すると表面材としての機能、即ち体液の吸収機能を害することになるため、表面材側には剥離剤等を配置することができない。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

しかし乍ら、前者の従来技術においては、1枚の剥離テープで2つの粘着剤を被覆し、使用する剥離テープを最小限にすることができるが、いずれにしる剥離テープを必要とするため、引き剥がした後に剥離テープを廃棄する等、その処分が面倒である。

【0006】

これに対して、後者の従来技術においては、剥離テープを全く用いない構成であるから、使用時における剥離テープの廃棄処分等が必要でなく、また製造工程においても簡易になるという利点はあるが、生理用ナプキンの一部（例えば前部）のみにしか粘着剤を配置できない。即ち、後部は剥離剤のみしか配置できないために、前部と後部との両方で生理用ナプキンを接着できず、着用中における生理用ナプキンのずれを確実に防止できないという問題がある。

【0007】

従って、本考案の目的は、剥離テープを不要とすることにより使用時の操作を簡易にし、且つ着用中のずれを確実に防止できるとともに製造が容易な吸収性物品を提供することである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本考案は、液透過性の表面材と、液不透過性の防漏材と、これらの表面材と防漏材との間に配置された吸収体とを有する吸収性物品において、該吸収性物品の裏面側の表面には吸収性物品の長手方向における前部及び後部のそれぞれに粘着部が設けられており、該各粘着部は、粘着剤が塗布された粘着剤部分と粘着剤表面を被覆し粘着剤に対して剥離自在な剥離剤部分とを備え、上記吸収性物品を上記前部の粘着部及び上記後部の各粘着部が互いに対峙するように四つ折りにした際に、一方の粘着剤部分を他方の剥離剤部分が被覆するように配置されていることを特徴とする吸収性物品を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0009】

【作用】

本考案による吸収性物品は、使用時には、折り畳まれて、互いに接着されている前部の粘着部と後部の粘着部とを、互いに引き剥がして吸収性物品を展開し、前部と後部とが配置された各粘着剤部分を露出してショーツ等に接着して装着する。

【0010】

かかる吸収性物品の装着の際には、一方の粘着剤部分は他方の剥離剤部分にて被覆する構成であるから、剥離紙を必要としないため、装着操作が簡易であり、しかも前部と後部との両方でショーツ等の下着に確実に接着し、着用中におけるずれが防止される。

尚、かかる吸収性物品の製造時には、剥離紙を配置する工程を削除でき、製造工程が削減される。

【0011】**【実施例】**

以下に、添付図面を参照し乍ら本考案の好ましい実施例を詳細に説明する。

図1～図3に示すように、本考案による吸収性物品としての生理用ナプキン1は、液透過性の表面材2と、液不透過性の防漏材3と、これらの表面材2と防漏材3との間に配置された吸収体4とを有し、該吸収性物品の裏面側の表面には、吸収性物品の長手方向における前部及び後部のそれぞれに粘着部6、7が設けられており、該各粘着部6、7は、粘着剤が塗布された粘着剤部分6a、7aと、粘着剤表面を被覆し粘着剤に対して剥離自在な剥離剤部分6b、7bとを隣接して備え、上記生理用ナプキン1、上記前部及び上記後部の各粘着部が互いに対峙するよう四つ折りした際に、一方の粘着剤部分6a、7aを他方の剥離剤部分6b、7bに対応して位置し被覆するように配置されている。

【0012】

また、生理用ナプキン1の長手方向の中央部より前部側の位置には、その幅方向の外側に延出する一対のウイング8、8が設けられており、これらのウイング8、8のそれぞれにはその中央部に粘着部8a、8aが設けられており、かかる粘着部8a、8aが配置されている位置に対応して、防漏材3の表面にウイング

用剥離剤 8 b が帯状に配置されている。

【0013】

更に、生理用ナプキン 1 の形状は、全体として長四角形状に形成されており、周縁部において表面材 2 と防漏材 3 とが溶着接合されている。前部の粘着部 6 と後部の粘着部 7 とは、それぞれ前端部及び後端部から全体の略 1/4 程離れた位置に配置されている。

上記表面材 2 は、排泄物を吸収体 4 へ透過させる液透過性シートで肌着に近い感触を有したものが好ましく、このような液透過性シートとしては、例えば、織布、不織布、多孔性フィルム等が好ましい。また、表面材 2 の周縁部にシリコン系油剤、パラフィンワックス等の疎水性化合物を塗布する方法や、予めアルキルリン酸エステルのような親水性化合物を塗布し、周縁を温水で洗浄する方法により撥水処理を施し、周縁部における尿等のしみによる漏れを防止することができる。

【0014】

防漏材 3 は熱可塑性樹脂にフィラーを加えて延伸した液不透過性且つ蒸気を透過させる蒸気透過性のシートが用いられ、肌着に近い感触を有したものの、例えば、フィルムと不織布との複合材、あるいはフィルムと織布との複合材料等が用いられる。

吸収体 4 としては、解繊パルプを主材とし、高分子吸水ポリマーを併用したものが好ましく、そのほか、熱可塑性樹脂、セルロース繊維、高分子吸水ポリマーの混合物に熱処理したものなどが好ましい。高分子吸水ポリマーの存在位置は、上層、中層、下層のいずれであってもよく、パルプと混合したものであってもよい。該高分子吸水ポリマーは、自重の 20 倍以上の液体を吸収して保持し得る保持性能を有し、ゲル化する性質を有する粒子状のものが好ましく、このような高分子吸水ポリマーとしては、デンプン-アクリル酸（塩）グラフト共重合体、デンプン-アクリロニトリル共重合体のケン化物、ナトリウムカルボキシメチルセルロースの架橋物、アクリル酸（塩）重合体などが好ましい。形状としては、着用者の体型に併せた砂時計の形状が好ましいが、矩形であってもよい。

【0015】

前部の粘着部6は、生理用ナプキン1の長手方向における前部において粘着剤部分6aが四角形状に形成されており、粘着剤部分6aの後側には、それに隣接して、剥離剤部分6bが粘着剤部分6aと同様な四角形状の寸法で形成されている。同様に、後部の粘着部7には、前部の粘着部6に対応して略同一の寸法の粘着剤部分7a、剥離剤部分7bが形成されている。

【0016】

各粘着剤部分6a、7a及び各剥離剤部分6b、7bの位置は、粘着部6、7が互いに対面した際に、粘着剤部分6aが剥離剤部分7bに、粘着剤部分7aが剥離剤部分6bに同時に被覆されるようになっている。

粘着剤としては、ゴム系、エチレン-酢酸ビニル共重合体(EVA)系、オレフィン系、アクリル系等の通常の吸水性物品に使用できるものなら何を用いてもかまわないが、好ましくはゴム系のホットメルト粘着剤が用いられる。

【0017】

剥離剤としては、シリコーン樹脂系、フッ素樹脂系、長鎖アルキレート系等が用いられ、好ましくはシリコーン樹脂系の剥離剤が用いられる。

ウイング8、8に設けられているウイング用の粘着剤部分8a、8a及びウイング用の剥離剤部分8bについても上述したものと同様な粘着剤及び剥離剤が用いられている。また、ウイング用の剥離剤部分8bの形状は、ウイング8の幅と略同一の幅で、生理用ナプキン1を横断するように帯状に設けられている。

【0018】

このような生理用ナプキン1は、その非使用時には、図1に示すように、その長手方向の略中央部の第1の折り込み部9において、表面材2が互いに対面するように内側に折り畳まれており、更に、前部および後部の略中央の2箇所における第2の折り込み部10において表面材2側に折り畳まれ、結果的に前部の粘着部6と後部の粘着部7とが互いに対面して位置するようになっている。即ち、全体として4つ折りにされている。

【0019】

この状態で前部の粘着剤部分6aが後部の剥離剤部分7bに、後部の粘着剤部分7aが前部の剥離剤部分6bに同時に被覆される。

一方、ウイング8、8はその粘着剤部分8a、8aをそれぞれ剥離剤部分8bに向けて折り畳み、適当な位置で貼着する。このとき、前述の如く剥離剤部分8bは防漏材3を横断して、広い範囲に亘って、配置されているから任意の位置で剥離剤の被覆ができる。

【0020】

次に、本実施例の動作について説明する。

生理用ナプキン1の着用前は、図2及び図3に示すように4つ折りに折り畳まれた状態にあり、着用時には、それを展開するようにして、前部の粘着部6と後部の粘着部7とを互いに引き剥がす。このとき、前部の粘着剤部分6aが剥離剤部分7bに、粘着剤部分7aが剥離剤部分6bに対して剥離される。

【0021】

更に、ウイング8、8の粘着剤部分8aを剥離剤部分8bから引き剥がしてウイング8、8を展開する。

このようにして、図1に示すように生理用ナプキン1を展開した後、生理用ナプキン1の表面材2側をそのまま排泄ポイントに当て、同時に防漏材3側の粘着部6、7及びウイング8をショーツ等の下着に（図示せず）に接着する。

【0022】

この場合、生理用ナプキンは、その前部の粘着部6及び後部の粘着部7の2箇所により確実に接着されるので、着用者の動きに対して生理用ナプキン1のずれが確実に防止される。

そして、装着の際には、生理用ナプキン1に剥離紙を用いていないから、かかる剥離紙の廃棄処理等が必要なく、装着操作が容易である。

【0023】

また、生理用ナプキン1の製造時には、剥離紙を配置する工程が必要ないので、工程数の削減と部品点数の削減を図ることができる。

本考案は上述した実施例に限定されることなく、本考案の要旨を逸脱しない範囲において種々変形可能である。

例えば、上述した実施例では、ウイングを配置した構成としてが、これに限らず、図4に示すように、ウイングを設けないものであってもよい。

【0024】

また、各粘着部には、一つの粘着剤部分と剥離剤部分とを設ける構成としたが、これに限らず、2つまたは3つずつ配置する構成であってもよい。

更に、各粘着剤部分と剥離剤部分とは長手方向に隣接して配置されることに限らず、長手方向に間隔をあけて、または幅方向に隣接して配置されていてもよい。この場合、対応する他方の粘着部における粘着剤部分及び剥離剤部分も同様に配置される。

【0025】

【考案の効果】

本考案の吸収性物品は、剥離紙を不要とすることにより使用時の操作を簡易にし、且つ着用中のずれを確実に防止できるとともに製造が容易である。